

大分県新長期総合計画策定県民会議 第3回元気部会 委員発言要旨

日時：令和6年2月22日(木)14:00～16:05

場所：レンブラントホテル大分 2階 二豊の間

No.	項目	発言要旨
1	元気1 (1) 農業	・林業や水産業では衛星データの活用が進んでいるが、農業の分野でも衛星データを活用した取組を推進していくのか。
2	元気1 (1) 農業	・農繁期の人手不足に対応できる「加勢制度」のような仕組みを考えていただけたらありがたい。どうしても人手が足りないときに加勢を相談できるようなところがあるとよい。
3	元気1 (1) 農業	・スマホを使った圃場の堆肥・農薬管理や機械化など、農業経営の効率化や省力化につながるスマート技術の導入をさらに進めてほしい。
4	元気1 (2) 林業	・世界情勢が変化し、気候も変動していく中で、林業・木材産業に求められる役割は時代とともに今後も変化していくと思う。こうした変化にアップデートし、対応できるような柔軟性を持ち合わせた林業・木材産業の実現が求められている。
5	元気1 (3) 水産業	・こどもの魚食離れが進む中、学校給食を通じた魚食普及は大変ありがたい取組。 ・鰻では、魚体の大きさに応じた放流ルールを設け、漁業者自らが資源管理に取り組んでいる。また、骨切りの機械化など食べやすくする工夫も進めている。こうした取組により魚食普及をさらに進め、業界としても水産業を盛り上げていきたい。
6	元気2 (1) 中小企業	・県は、豊富なメニューで中小企業を支援しているが、端々の企業までは行き届いていないこともある。支援が県内企業に広く届くよう広報に力を入れてほしい。
7	元気2 (1) 中小企業	・M&A（第三者承継）の民間仲介業者の手数料が高く、手が出しにくい。県内企業の事業承継を進めるためにも、行政にも頑張ってもらいたい。
8	元気2 (1) 中小企業	・企業内部で新たに企業を設立する企業内起業に取り組む企業が増えている。地場企業への支援はもちろん、大手企業をはじめ、様々な業種の企業内起業の誘致を国内外問わず広く集めることが大事だと思う。
9	元気2 (2) ものづくり産業	・ものづくり産業の生産効率化を実現するため、高度な設備を活用するための教育、ノウハウの支援策を充実してほしい。
10	元気2 (2) ものづくり産業	・TSMCの熊本への進出が進む中で、熊本県が囲い込みを進めていると聞く。大分県が今後どのように取り組んでいくのか、考えていく必要がある。
11	元気3 (1) (2) 観光	・観光の政策・施策は、様々な取組が網羅されており評価できる。一方で、メリハリやバランスを取る観点も大事になってくると思う。計画を着実な実行に向け、それぞれの取組に対する予算を示し、計画と予算の見える化を図ることはできないだろうか。
12	元気3 (1) 観光	・瀬戸内海を囲む7県で構成する「せとうちDMO」に大分県が入っていない。別府や湯布院というキラーコンテンツを活かした広域周遊観光を進めるためにも「せとうちDMO」に加入すべきではないか。

13	元氣3 (1) 観光	・東北3県（青森・秋田・岩手）では、空港相互が連携して誘客に取り組む工夫をしている。大分県も熊本空港等との連携に取り組んではどうか。
14	元氣3 (2) 観光	・湯布院や湯平、鉄輪、長湯は、保養や湯治の長い歴史を持つ。これらを活かした滞在型観光を推進してはどうか。二地域居住や移住にもつながっていく魅力を持っていると思う。
15	元氣3 (2) 観光	・APUのサステナビリティ観光学部には、観光、持続可能な開発に関心がある学生が集まっている。別府・大分全体に馴染んでもらい、残ってもらう取組が大事。
16	元氣3 (2) 観光	・ツーリズムおおいたの取組について、個々の観光事業者にとってどのような効果があるのかが今ひとつ見えにくい。県内の観光事業者が恩恵を実感できるような活動を展開してほしい。
17	元氣3 (1) (2) 観光	・DC（デスティネーションキャンペーン）が、個々の観光事業者にどのようなメリットをもたらすのか今ひとつ分かりにくい。アドベンチャーツーリズムやサイクルツーリズムも同様。新しいことに取り組むことは良いことだが、いまあるものを残し、活用していくことも大事。
18	元氣4 (1) 海外展開	・「現状と課題」に記載されている「国内需要の縮小」は否定しないが、県内企業の海外展開を促すためにも「海外市場は儲かる、利益が出る」といったポジティブな表現を盛り込むことを検討してほしい。
19	元氣4 (1) (2) 外国人	・APUの留学生を活用しきれていないのは非常にもったいないと感じている。留学生を対象とした県内企業訪問やインターンシップの充実など、留学生が大分の企業に残るような仕組みづくりに力を入れてほしい。こうした取組は将来的なビジネス交流にも繋がっていくと思う。
20	元氣4 (2) 外国人	・インターナショナルスクールや国際バカロレア認定校の設置の必要性について、現在、県で研究・検討いただいているとのことだが、「現状と課題」の中に、外国人のこどもたちの教育環境の整備が十分ではないといったことを書き加えてほしい。 ・その上で、「主な取組」について、教育関係者会議のような会議体をつくり、外国人のこどもたちの教育環境の整備を進めるといったことを書き加えることはできないか、併せて検討してほしい。
21	元氣4 (2) 外国人	・外国人のこどもや帰国児童生徒に対しては、日本語指導だけでなく、高校進学ガイダンスといった取組が求められる。情報弱者になりがちなため、就学準備の必要性をしっかりと伝える必要がある。
22	元氣4 (2) 外国人	・安心6（2）「地域共生社会」に記載されている、サードプレイスづくりの推進の文頭の「住民」は、全ての住民を指していると思うが、「外国人住民」という言葉があれば、より外国人に選ばれる環境づくりに繋がるのではないかと思う。
23	元氣5 (1) 人づくり	・地場企業と地元学生を結ぶインターンシップを充実させ、多くの学生に職業体験のチャンスと地場企業を知ってもらうチャンスを与えてほしい。
24	元氣5 (1) 人づくり	・大分の魅力をアピールし、UIターンを促進してほしい。大分ならではの魅力を発信することで、大分で働くことに魅力を感じてくれるはず。大分には、通勤時間や自然環境と生活ロケーションとの距離感、レジャー、文化、コスパの良さなど、都会にはないポテンシャルがある。
25	元氣5 (1) 人づくり	・中小企業で男性が育休を取れない背景には、まさに人手不足がある。本日の部会でも、農業、中小企業、観光分野で話題になったように、様々な分野で人手不足が深刻化している。ぜひ、元氣5（1）が掲げている、様々な産業を支える人づくりにしっかり取り組んでほしい。女性活躍や育児支援にも利いてくると思う。

26	元気5 (2) 女性 活躍	・目標指標に「管理職に占める女性の割合」が記載されているが、10年後を見据えた場合、もはや性別は狭い捉え方になっているかもしれない。10年後はもっと広い意味での多様性を語れる県になっていればと思う。
27	元気6 (1) (2) 芸術 文化	・久留島武彦や柳原白蓮など、大分県ゆかりの人物や素材をもっと研究・発掘し、活用していくことも大事だと思う。
28	元気6 (1) 芸術 文化	・APU出身で全国的に活躍している音楽アーティストもいる。大分にゆかりのある若いアーティストなどの活躍にも注目し、活用していくことも必要ではないか。
29	元気6 (1) 芸術 文化	・文化庁の第2期文化芸術推進基本計画の検討会議では、「地域における芸術文化の満足度」について、現状の全国平均37.9%を、2027年に60%に引き上げていくことが議論されている。
30	元気7 (1) スポ ーツ	・世界で活躍する県ゆかりの選手は大分県の宝。こうした選手の存在を大分県の元気づくりにつなげてほしい。
31	全般	・10年後の将来を見据えた計画のため、若者がいかに活躍できるかを考えることが大事。そのためには、やはりDXの取組や考え方が非常に重要になってくる。